

発掘された伏見城 ～近年の調査成果から～

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 新田和央

はじめに

伏見城は豊臣秀吉が築き、晩年を過ごした城であり、また徳川家康が将軍としての基盤を整え、秀忠・家光が将軍職を引き継いだ城でもあります。伏見城の実像は近年の発掘調査成果によって大きく書き換えられています。

1 伏見城のあらまし

- ・立地
- ・歴史
- ・現在に残る伏見城遺構

2 指月伏見城―幻の城の実態が徐々に明らかに

- ・築城から慶長伏見地震による倒壊までわずか 4 年間しか存続しない。しかも伏見山（木幡山）伏見城の築城に伴う大規模な造成により、地表面にその痕跡をほとんど残さない。
→長らく遺構の一端もつかめなかった「幻の城」
- 平成 27 年以降、複数箇所で見出され、石垣を検出。

- ① 観月橋団地 1 地点
- ② 観月橋団地 2 地点
- 石垣の発見を受け、指月伏見城中心域推定地の調査を実施
- ③ 桃山東合同宿舎
- ④ 大光明寺陵南側斜面の測量調査
- ⑤ JR 桃山駅前発掘調査

- 従来指月伏見城範囲外と思われていた地点。指月期に遡る石垣基礎部分と階段を確認
- ・発掘調査成果と地形から考える指月伏見城の姿

3 伏見山（木幡山）伏見城―相次ぐ重大発見

- ・中心部が明治天皇陵の陵墓地となったことから、中心域の様相は不明。遺跡が開発から保護されてきたという側面も
- ⑥ 京都府教育委員会による中世城館調査（平成 25・26 年度）

- ⑦ 大阪歴史学会による立ち入り調査（平成 22～25 年度）
陵墓地内の地形が詳細に判明。伏見城遺構が良好に遺存
天守台の大きさなど、重要情報を確認
- ⑧ 令和 4 年：中心域初の発掘調査
石垣が良好に遺存していることを確認

- ・大名屋敷の調査
伏見城城下の地形は極めて直線的「直線を見たら秀吉と思え」
- ⑨ 呉竹総合支援学校の発掘調査
大規模造成工事の具体像が明らかに
- ⑩ 大名屋敷の調査 1：加賀前田家
屋敷に伴う壺掘り地業（地盤改良）
- ⑪ 大名屋敷の調査 2：桃山町下野
石垣と階段を良好な状況で確認。石垣の大規模な造り替え

4 明らかになる伏見城

- 近年の調査により、
- ・指月伏見城・伏見山伏見城中枢部の姿が徐々に実体化
 - ・指月伏見城（2 期）から伏見山伏見城（3 期）への移転改築だけでなく、豊臣伏見城から徳川伏見城への改築も極めて大規模だったことを確認
- 今後の調査でもさらなる発見が大いに期待できる。

参考文献 ※番号は調査番号に対応

- ① （有）京都平安文化財 2021『伏見城跡・指月城跡―平成 27 年度発掘調査報告書一』
- ② 関西文化財調査会 2020『伏見城跡発掘調査報告』
- ③ 京都市文化市民局 2021『指月城跡・伏見城跡発掘調査総括報告書』
- ④ 清喜裕二ほか 2018「光明天皇ほか 大光明寺陵の外形調査」『書陵部紀要』第 69 号（陵墓編）、宮内庁書陵部
- ⑤ （公財）京都市埋蔵文化財研究所 2022『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2021-9
- ⑥ 京都府教育委員会 2014「123 伏見城跡」『京都市内中世城館調査報告書』第 3 冊―山城編 1 ―
- ⑦ 大阪歴史学会 2022『伏見城跡立入調査報告』
- ⑧ 京都市文化市民局 2023「伏見城跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 令和 4 年度』
- ⑨ （公財）京都市埋蔵文化財研究所 2021『伏見城跡・福島太夫遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2021-5
- ⑩ 京都市文化市民局 2016「IX 伏見城跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成 27 年度』
- ⑪ （株）四門 2018『伏見城跡 京都市伏見区桃山町下野 27-1 の発掘調査』
京都市文化市民局 2019「V-5 伏見城跡」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 30 年度』

※掲載図面は調査①を除き各報告書から引用、一部改変あり

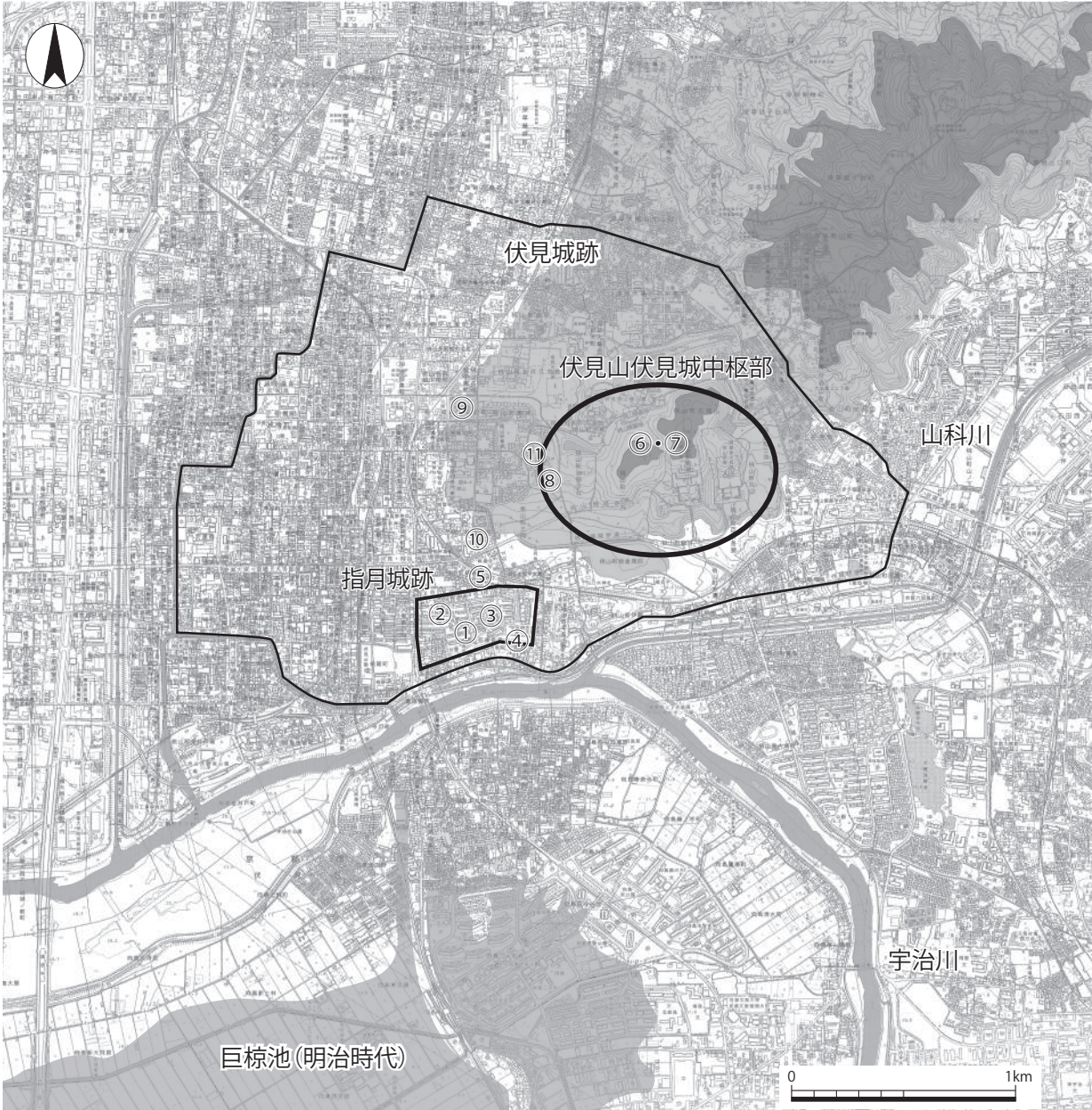
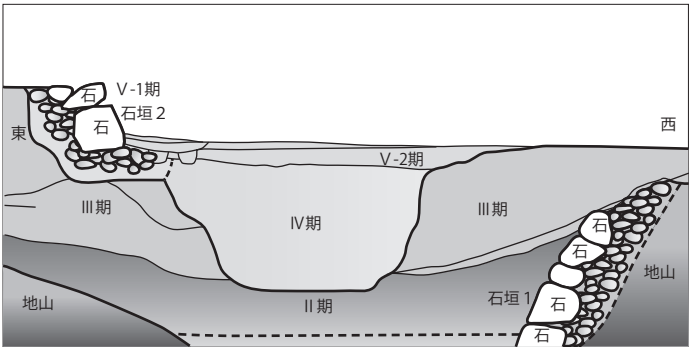


図1 伏見城跡と関連調査地(1:30,000)

表1 伏見城関連略年表

和暦	西暦	出来事	段階	
文禄元	1592	豊臣秀吉、伏見に隠居屋敷の造営を開始	1	指月屋敷
文禄2	1593	秀吉、伏見の隠居所へ転居		
文禄3	1594	屋敷の大幅改修開始。本格的な城郭へ修築	2	指月伏見城
文禄4	1595	豊臣秀次失脚		
文禄5	1596	慶長伏見地震で城が倒壊。本丸を移して再建開始	3	伏見山 伏見城 (豊臣)
慶長3	1598	秀吉、伏見城で死去		
慶長4	1599	徳川家康、伏見城に入城		
慶長5	1600	関ヶ原戦いの前哨戦で、西軍が伏見城の鳥居元忠を攻撃。落城し、焼亡	4	伏見山 伏見城 (徳川)
慶長6	1601	家康、伏見城の再建を開始		
慶長8	1603	家康、伏見城で征夷大將軍宣下を受ける		
慶長10	1605	徳川秀忠、伏見城で征夷大將軍宣下を受ける		
慶長19	1614	大坂冬の陣		
慶長20	1615	大坂夏の陣。豊臣氏滅亡		
元和5	1619	伏見城廃城が決定され、石垣の破却が進む		
元和9	1623	徳川家光、伏見城で征夷大將軍宣下を受ける。これ以前に御殿を修築 伏見城廃城、天守は淀城に移築		



- I期 :石垣1を伴う堀が構築された時期
II期 :石垣1を伴う堀の機能が停止した時期(文禄5年【慶長元年】大地震か?)
III期 :石垣1を伴う堀が埋め戻された時期
IV期 :規模の小さな堀の築かれる時期
(III期と同時期の可能性がある);武家屋敷境の堀?
V-1期:武家屋敷地拡大に伴い堀を埋め立て石垣2を構築する時期
V-2期:下段の屋敷地を拡大するために整地された時期
(V-1とV-2は同時並行で施工されたと考えられる)

図2 調査①検出石垣及び堀概念図

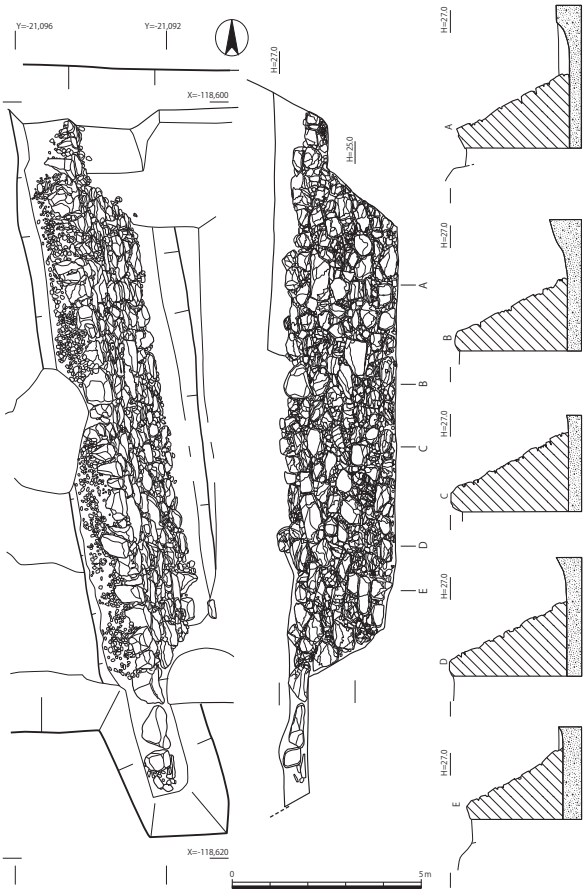


図3 調査②検出石垣平面・立面・断面図(1:200)

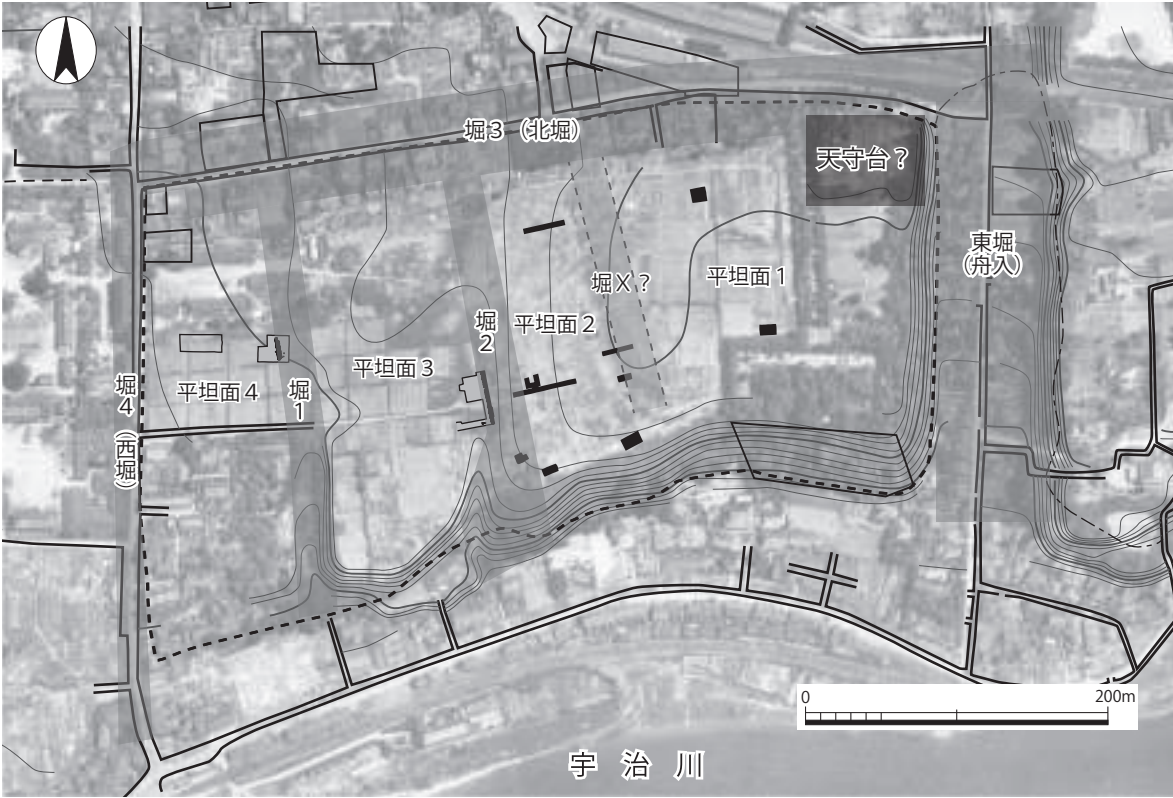


図4 指月城復元図(約1:5,000)



図5 調査⑥作成 伏見城中枢域縄張図(1:8000)



図6 調査⑦作成 伏見城中枢域レーザー測量図(1:8000)



図7 調査⑧検出石垣平・立面図(1:100)

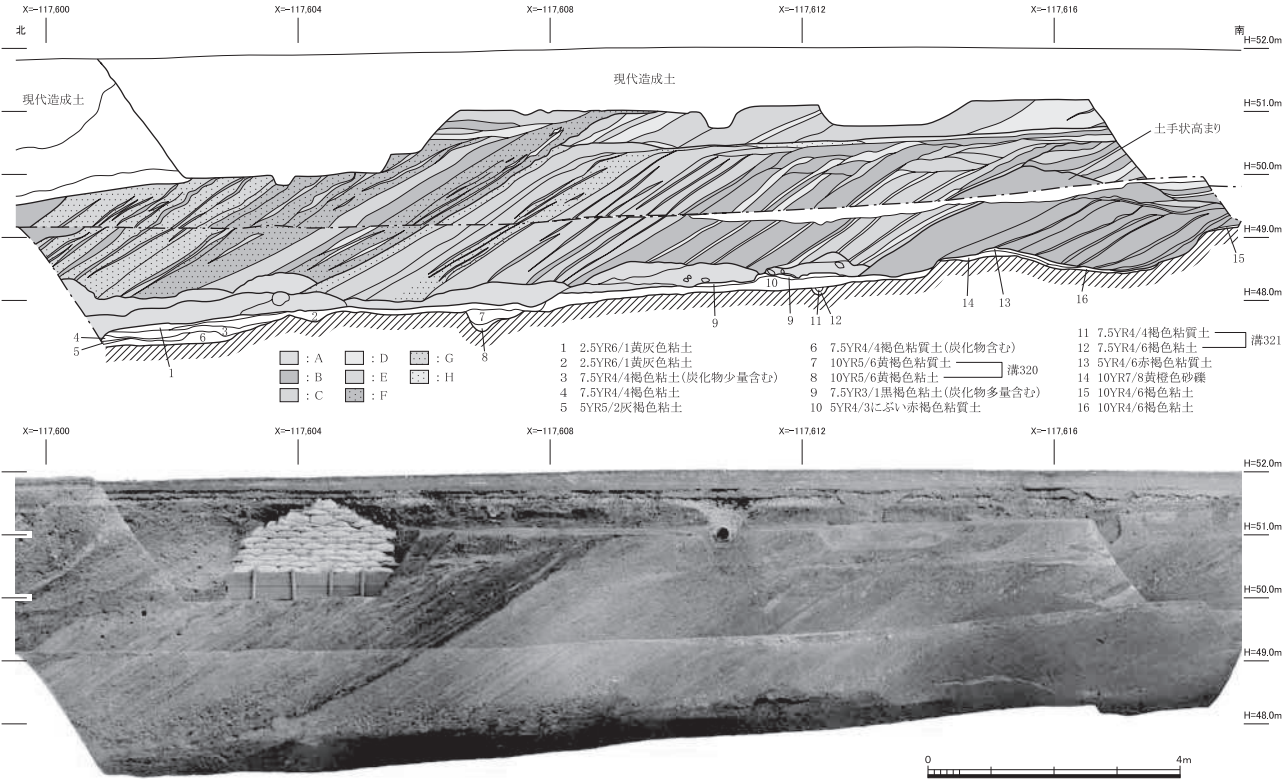


図8 調査⑨調査区壁面図(1:120)

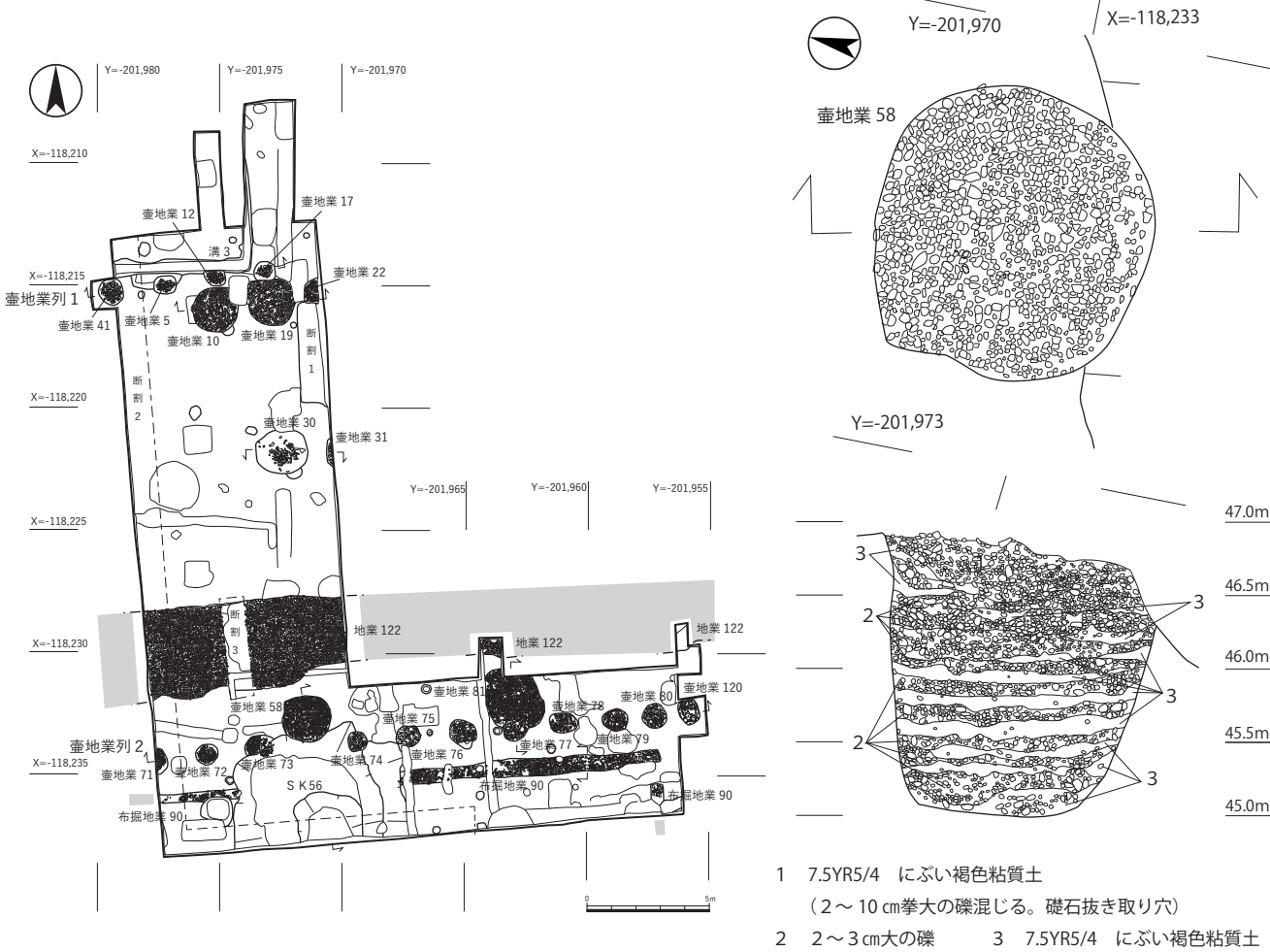


図9 調査⑩調査区全体図(1:300)・壺地業平・断面図(1:50)

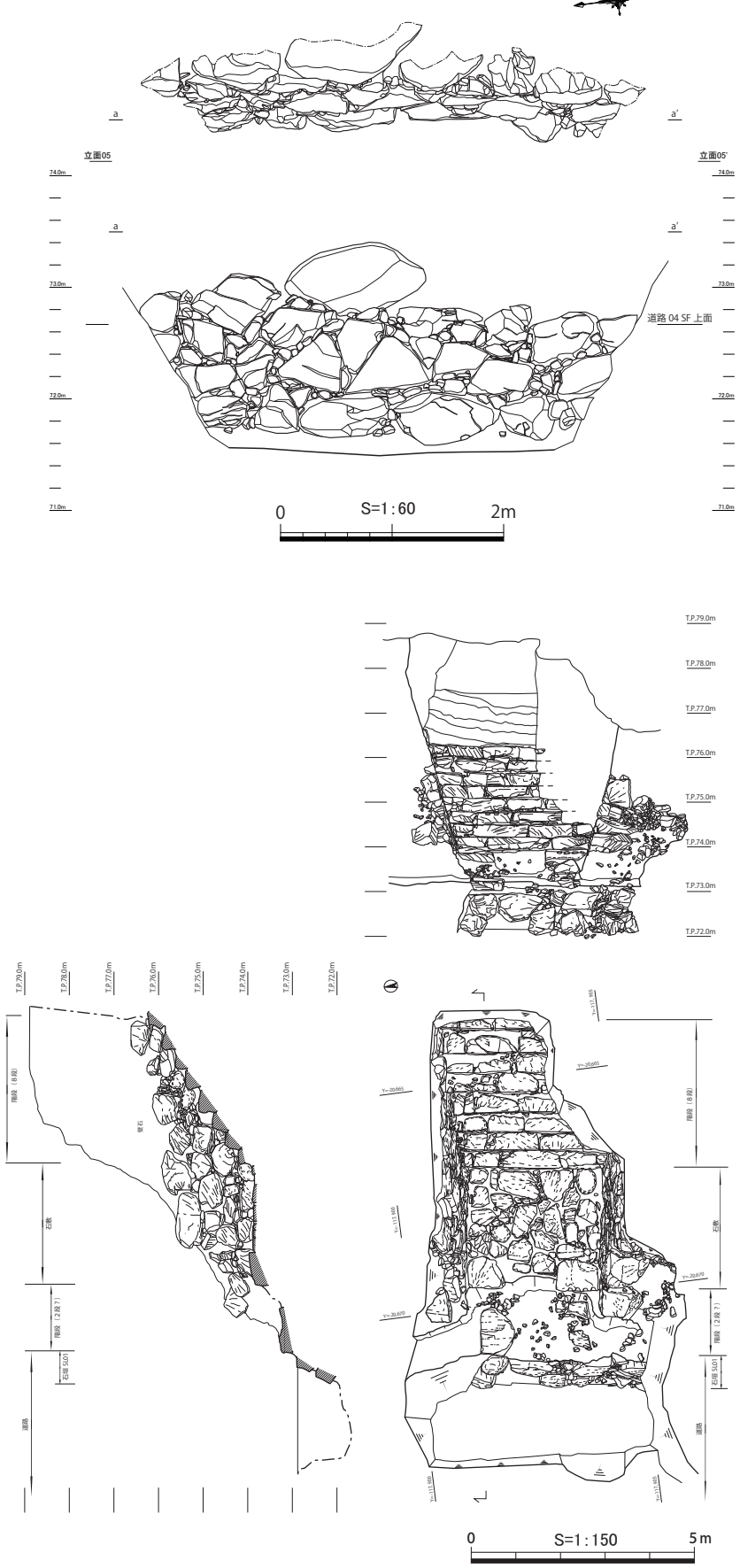
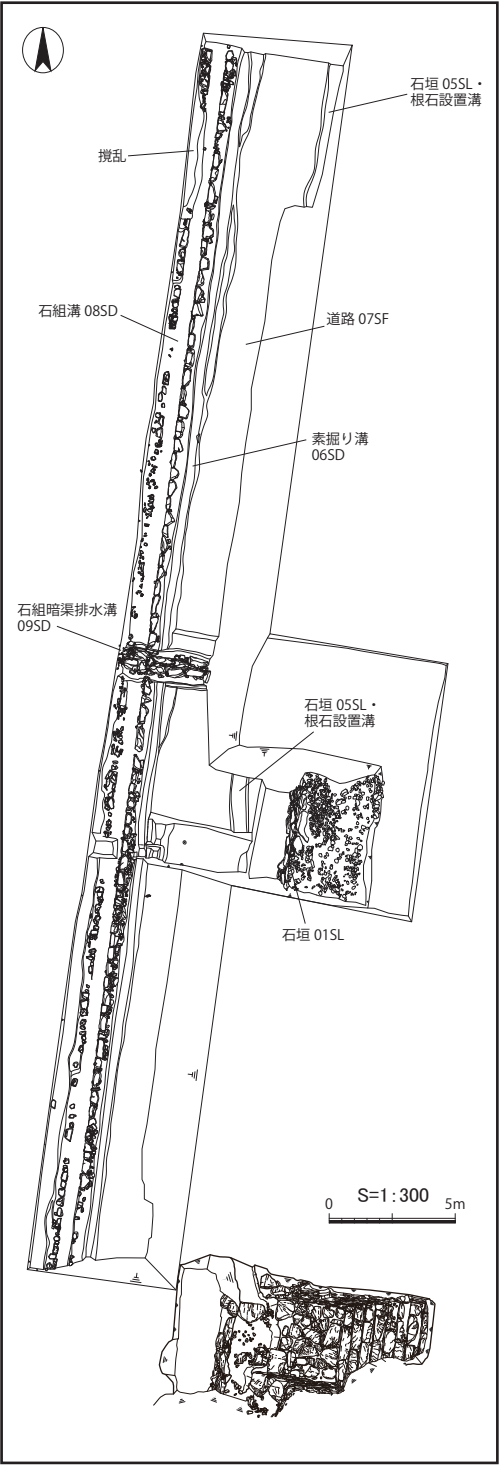


図10 調査⑪平面図・立面図(スケールはそれぞれに記載)



調査① 検出石垣
(上) 武家屋敷期
(右上) 武家屋敷期と指月期
(右下) 指月期



調査⑤ 検出石垣基礎



調査② 検出石垣



調査⑥・⑦ (上) 本丸天守台
(下) 増田右衛門尉丸石垣



調査⑧ 検出石垣・裏込め



調査⑩ (上) 地業断面
(下) 調査区



調査⑨ 造成土



調査⑪ (上) 遠景・(左中) 新段階石垣裏込め
(左下) 古段階石垣・(右下) 古段階階段